

令和 6 年能登半島地震被災地等における
全国地震動予測地図の認知度等に関する調査について
(報告)

令和 7 年 6 月 2 7 日
地震調査研究推進本部事務局

令和 6 年能登半島地震被災地等における全国地震動予測地図の認知度等に関する調査

【調査概要】

- 実施主体**：文部科学省研究開発局地震火山防災研究課
(地震調査研究推進本部事務局)

協力：東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター

委託業者：株式会社サーベイリサーチセンター

- 調査目的**：

令和 6 年能登半島地震の際、全国地震動予測地図など地震調査研究の成果が、被災地域の住民に十分に認知・活用されていなかった可能性が課題として挙げられた。

これを受け、全国地震動予測地図を中心とした地震調査研究の成果の認知度や利用状況、地震に対する理解度等を把握し、今後の地震調査研究の成果普及方策を検討するための基礎資料を得ることを目的として、アンケート調査を実施した。

- 調査対象**：輪島市及び珠洲市の一般住宅及び仮設住宅、金沢市の一般住宅

- 調査方法**：質問紙調査（郵送配布郵送回収）

- 調査期間**：令和 6 年 12 月 12 日～令和 7 年 1 月 21 日

【調査結果】

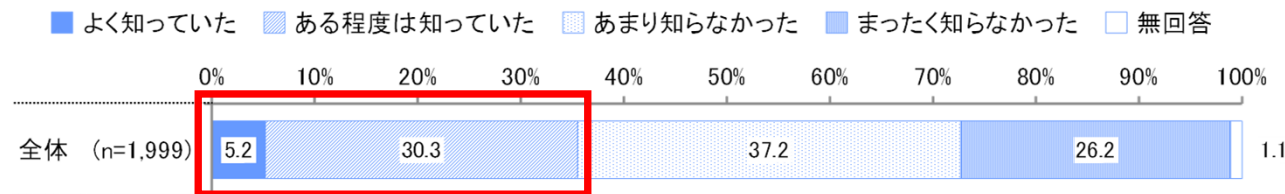
- 有効回収率**：35.4%（有効回収数 1,999件 / 実配布数 5,653 件）

【主な調査結果】

地震調査研究の成果の認知状況・活用状況について

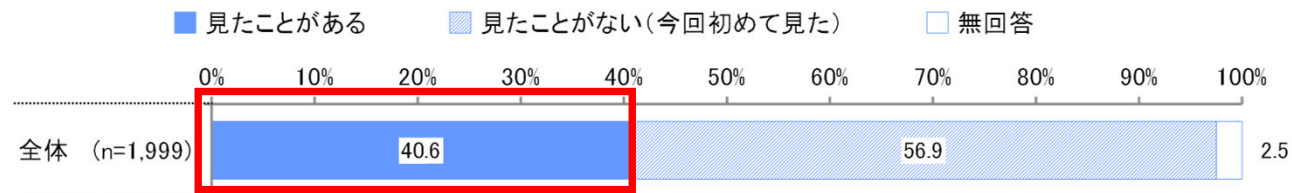
○問9 地震調査委員会による地震の注意呼びかけの認知状況

「よく知っていた」：5.2%、「ある程度は知っていた」：30.3%



○問15 確率論的地震動予測地図の認知有無

「見たことがある」：40.6%、「見たことがない」：56.9%



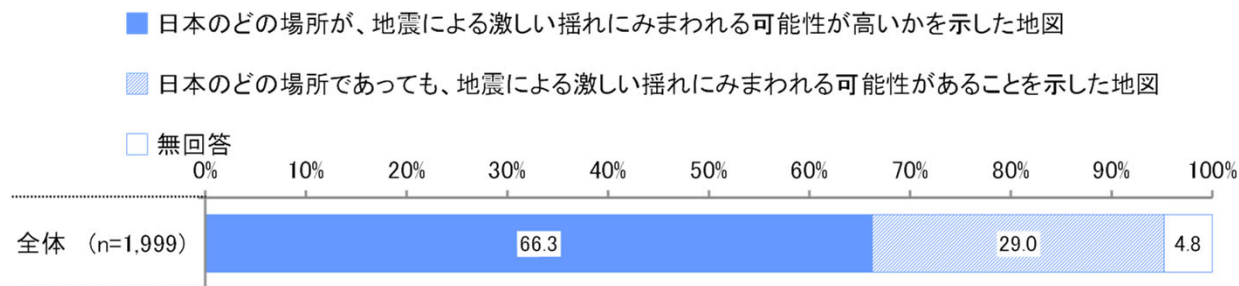
○問14 地震や地震対策のことを知るのに参考にしていただいた国や自治体の情報

「市町のハザードマップ」：48.6%、「気象庁の情報」：32.5%、
「地震動予測地図」：5.7% など

【主な調査結果】 地震動予測地図を見ての受け止め

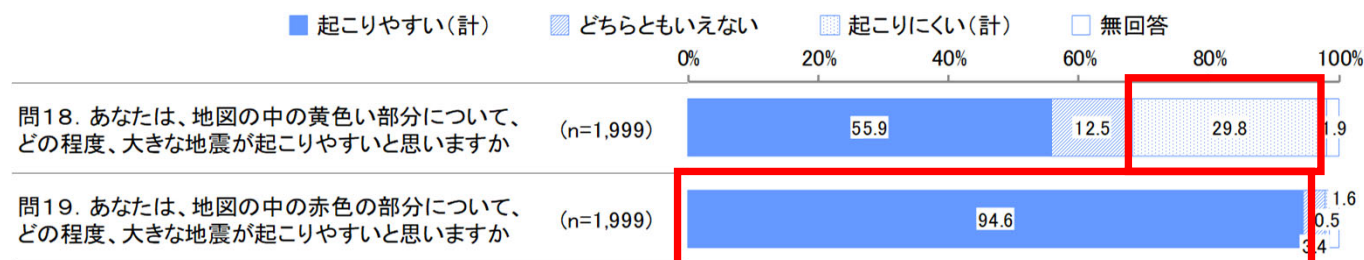
○問16 地震動予測地図が何を示した地図であるか

「日本のどの場所が、地震による激しい揺れに見舞われる可能性が高いかを示した地図」が66.3%、「日本のどの場所であっても、地震による激しい揺れにみまわれる可能性があることを示した地図」が29.0%。



○問18、19 地震動予測地図を見て感じる大地震の発生しやすさ

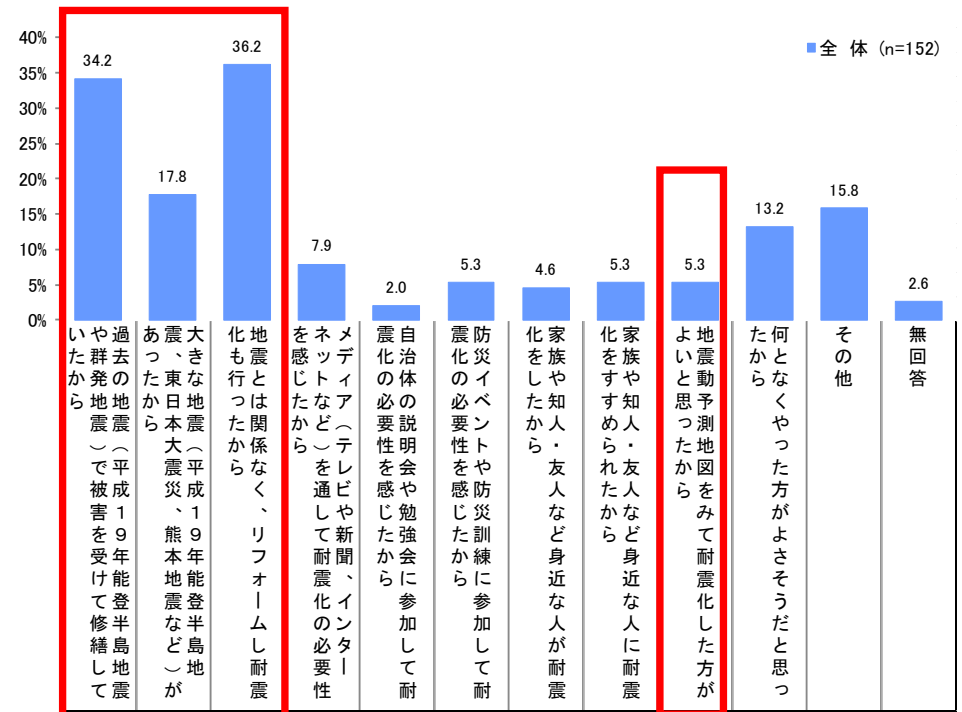
黄色の地域で55.9%が「起こりやすい」と認識している一方、29.8%が黄色の地域を「起こりにくい」と認識している。



【主な調査結果】 自宅の耐震化状況について

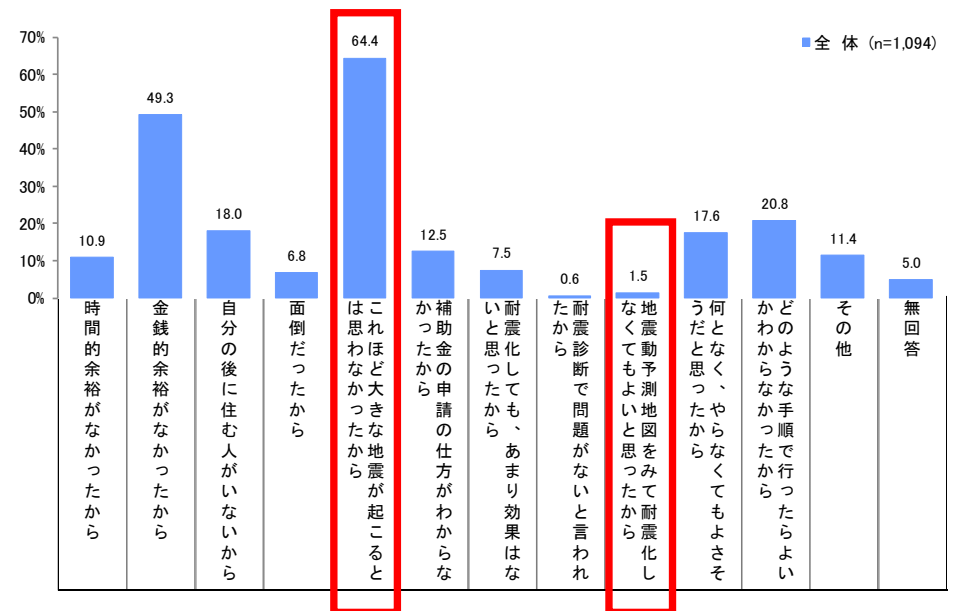
○附問10-1 自宅を耐震化した理由

「地震とは関係なく、リフォームし耐震化も行ったから」が36.2%と最多、「過去の地震で被害を受けて修繕していたから」、「大きな地震があったから」が続く。



○附問10-2 自宅を耐震化しなかった理由

「これほど大きな地震が起こるとは思わなかったから」が64.4%と最も多い。



【本調査結果を受けた今後の取組】

本調査において、

- 地震調査委員会による地震の注意呼びかけ(35.5%)や地震動予測地図(40.6%)は一定の認知がされ、大地震の発生のしやすさの認識として55.9%が黄色の地域を「起こりやすい」と認識している

一方、

- 29.8%が黄色の地域を「起こりにくい」と認識している、
- 地震動予測地図を地震や地震対策を知るための参考とした者は5.7%、また、自宅の耐震化を行った者のうち地震動予測地図も参考にした者は5.3%であるなど、

地震調査委員会等の成果が地域住民に正しく理解され活用される余地があることが示唆された。

地震本部のもとで、引き続き地震本部ホームページや広報誌、地域講演会等イベントを通して、地震調査研究の成果普及を図るとともに、地震調査研究成果への正しい理解を促し、地震対策にさらに活用していただけるような普及啓発方策の展開を検討していく。